

野菜を加害するネギアザミウマの防除対策

【背景・目的・成果】ネギアザミウマは古くからの害虫ですが、最近になって難防除化し、今まで発生
の少なかったアブラナ科野菜類などに被害が増加しています。これらの被害は新たに侵入してきた
系統のネギアザミウマによるものが多く、これら新系統に対する防除対策を明らかにしました。

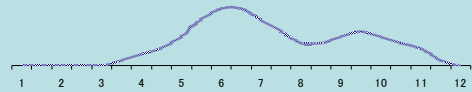


成虫



幼虫

越冬後、春から初夏にかけて増加
後、盛夏時には減少するが、秋に
再び増える。
ネギ類やウリ科、ナス科など多くの
作物を加害する。



淡路では5～6年前より
春期のキャベツに大きな
被害を与えている。
従来の薬剤がやや効果
が低下している傾向にあ
る。阪神地域のネギ等
でも同様の傾向にあり、い
ずれの地域も新系統が
確認されている。

外葉部の被害



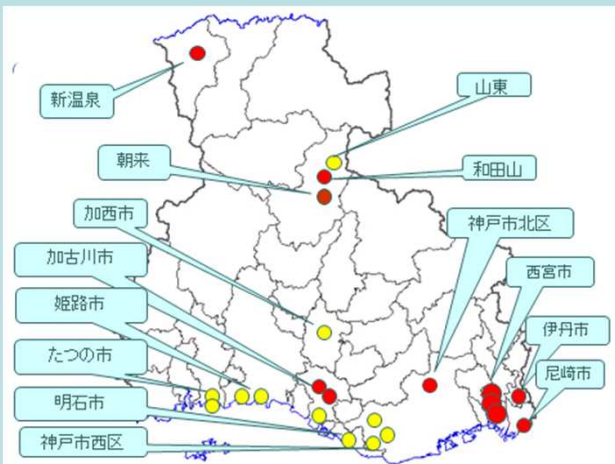
多いときは一枚の葉に1000～3000
個体が寄生。葉はかすり状に白変し、
商品価値は低下する

結球内部の被害



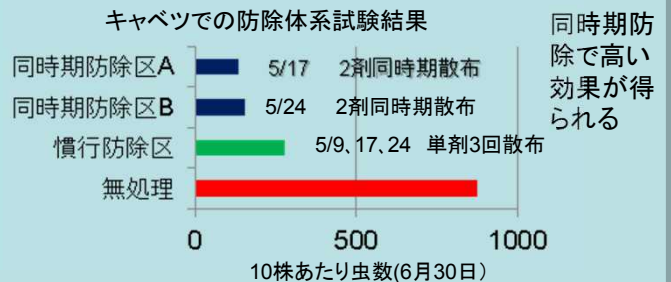
加害した痕がカルス状に盛り上
がり、著しく品質を損ねる

兵庫県での新系統発生状況 ● は新系統
PCR法による解析 (2010～2013)



新系統発生地域では各種薬剤の感受性検定
を行い、防除対策を確立

アセタミプリド水溶剤とスピネトラム水和剤
を用いた体系防除試験



新たな被害が生じた産地に対しても既
存の調査データを活用し、対応が可能

朝来市
岩津ネギの
調査



【技術の活用】ネギアザミウマに対する既存の登録薬剤の一部は、新系統発生地域においては
効果が劣る場合があります。従来の薬剤が効かないと感じた場合は、農業技術センター病虫害
部までご連絡ください。新系統の発生状況には今後も十分な注意が必要です。